

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東栃井 66-1		
自己評価作成日	平成30年10月25日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2171200278-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家で過ごしているような安心感とともに自主性を持って生活ができるよう職員が配慮をしています。大勢でにぎやかに楽しく過ごす時間もあれば一人でくつろぐ時間も大事にし、今まで行っていた趣味の延長や毎日日課としていたことを継続できるように個々に支援をしています。同一敷地内に法人の施設があり大掛かりな行事も行うことが可能で流しそめん、お祭りなど多岐にわたり楽しんで頂きつつ、身体の状態の変化に伴いその方の状態にあった施設へのスムーズな移行が可能です。地域密着の良さが生かされ地域の行事や地元の住民との関わりもあり、孤立した施設ではなく社会とかかわりも大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、平成29年度に、県が推奨する「ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」の認定を受けている。これまでの先駆的な取り組みに加え、人材育成や就業規定を整備し、定着率の高い職場環境を築いている。利用者支援では、一人ひとりの持てる能力を活かし、自立を支え、健康を保ちながら、家庭的な暮らしが継続できるように支援をしている。管理者、リーダー、職員それぞれが、意思の疎通を図りながら互いを認め合い、連帯感を強めている。利用者の健康寿命を延ばし、些細な気づきをより良いケアに活かしながら、質の高いサービスを提供しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、当ホームの理念を職員全員が理解をし、同じ目的を持って業務にあたっている。理念は常に事業所内に掲示し確認をしている。	理念は、朝のミーティングで確認し、常に理念の原点に立ち返り、実践に努めている。また、利用者が、住み慣れた地域と関わりながら、安心して自立した生活が送れるように、理念に沿った支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し地域の行事に参加をさせていただいている。散歩の際の挨拶も積極的に行っている。朴葉寿司の葉やしめ縄作りの藁は近所で頂いている。	地域行事である「クリーン作戦」に参加し、イベントにも出かけている。事業所の夏祭りには、地域住民を招き、地元ボランティアとも日常的に交流している。近所からは、野菜や朴葉、しめ縄用の藁などが届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の地域包括支援センターが認知症を知ってもらう為講習会や行方不明者の模擬捜索を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対して毎月のお便りでホーム内の行事や活動の様子をお知らせをしている。また、運営推進会議においても同様の活動をお知らせし助言を得ている。外部評価や満足度アンケートの結果を報告しサービスの提供の様子を理解して頂いている。	運営推進会議では、入居者状況や活動内容、今後の予定などを報告し、意見を交換している。外部評価の検証や災害対策、身体拘束、事故等についても話し合いながら、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1日にホームの入退居者、申し込み者、待機者数を市に報告し実績を把握して頂いている。推進会議において市からの情報ももらっている	市の担当者には、毎月、入退居や待機者情報を報告している。運営推進会議の際にも、運営の実情を伝え、協力関係ができています。市主催の会議やケアマネジャー会議でも情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしっかりと理解するため不適切ケアのエリア内講習を受講、身体ばかりでなく言葉による拘束やどんなことが拘束となるのかを理解し行わない様実践している。	利用者の行動を制限する行為は行わないとする禁止規定を順守している。緊急止むを得ない場合には、法人の身体拘束廃止マニュアルに基づき、対応を行い、記録に残すとしている。職員の内部研修を計画的に行い、第三者による「利用者の権利を守る会」も設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修の中で虐待防止について学ぶ機会を持ちいかなる場合も虐待は行わないことを実践している。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	エリア研修の中堅研修のカリキュラムの中に権利擁護についての研修があり、すべての職員が受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容について入居の際にご納得いただけるよう丁寧に説明を行っている。法改正があった場合もその都度説明をし契約書の取り直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見、要望をいただく機会を設けている。その他満足度アンケートを実施し回答を通して意見や苦情、要望をお聞きしている。毎月状況報告書し返信欄を設けている。	常に、利用者の意見に耳を傾け、家族からは、訪問時や家族会の際に聞いている。また、年に1回、アンケート調査を実施し、把握に努めている。玄関インターホンの故障は、家族から指摘を受け、速やかに対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	エリア長が職員会議に毎回出席し、職員からの意見をだしてもらっている。意見が出た場合は可能な限り法人で取り上げてもらっている。	月例の職員会議で、運営全般を話し合っている。利用者の健康管理やケアの気づきなど、多様な意見を検討しながら、運営に反映させている。また、勤務体制についても、意見や要望を聞き、働きがいのある就業環境を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得には特別休暇が設けられている。研修なども勤務内で受けられるよう配慮がある。成果にたいしては資格手当があり公平に給与が設定されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修、その他エリア内研修、勉強会など勤務年数に応じて研修を受講するシステムがある。法人外の研修にも参加できるように積極的な働きかけがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のネットワーク会議で市内の各事業所が参加し情報交換や事例検討会が実施され、要望によって医師による勉強会、講演会が開かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接で家族や本人が抱えている問題や不安、要望などをしっかりと把握しその情報を職員で共有することにより安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立った視点で話しを聞き、ケアの進め方を説明し納得いただいている。また実践の様子を毎月お便りと共にお知らせをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとってまず何が必要であるかを認識し、優先的に行うサービスや段階を踏んで行うサービスを必要に応じて提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は常に対等の立場である事を常に念頭に置いている。介護する側、される側にならない様自然な形でケアができる様努めている。利用者の力を引き出せるよう最小限の介助を行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族との関わりが切れる事の無いよう家族にしかできないことを理解して頂き利用者を一緒に支え合うことができる様努めている。時には利用者の希望を家族に伝える事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントで得た情報を活かし行きつけの喫茶店、美容院などを継続して利用できるよう支援をしている。また年賀状のやり取りや手紙には返事をお出しするよう支援をしている。宅急便で届いた荷物には電話でお礼をするよう促しをしている。	職員は、利用者が知人に電話をかけたり、友人と手紙のやり取りが出来るよう支援している。月に1回、外出の日を設けたり、馴染みの場所へ、ドライブを兼ねて出かけたりしている。また、家族の協力を得て、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒に出来るゲームを行ったり、職員が間にはいって話しを盛り上げるよう努めている。ほとんどの利用者が居間で過ごしており利用者同士の交流が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の環境や生活がスムーズに行えるよう情報の提供や相談支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの他毎日の様子から好きな事や楽しいと思う事などを探っている。外食のメニューや行きたい場所をその都度リサーチし、意向に沿うよう心掛けている。希望が多様な場合は個別で援助する事もある。	日々の生活場面や会話の中で、利用者の思いを把握するよう努めている。現在、意思疎通が困難な人はなく、出来ること、やりたいことを支え、一人ひとりの思いに添った暮らしができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報を活かし快適に過ごすことができる様環境を整えている。家族の面会時には話しをお聞きし、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	提供するうえで家事仕事が多いが出来る限り多岐にわたり仕事を提供し一緒に行うことで様子を把握している。また行事の準備やレクリエーションの活動など仕事ばかりでなく楽しみの際の様子も見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成には家族も参加をして頂いている。毎月のモニタリングは職員からの意見も聞きながら適切にサービスが提供されているかを検討している。	サービス担当者会議に、家族の参加を得ている。家族の意向に加え、職員、関係者の意見を踏まえて、介護計画を作成している。状態変化があった場合は、柔軟に見直し、常に、細やかなケアを行い、穏やかな生活が送れるよう計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子から気づきや考察、ケアプランの実施状態を記録し、情報として共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが発生した際に直ぐに支援が出来るよう併設の地域包括支援センターから情報を得たり提供ができる様努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や読書が好きな利用者には移動図書を利用したり喫茶が好きな利用者には包括が行っている想ひ出力フェを利用し出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診をしてもらうなど本人、家族の希望を重視している。その際には情報の提供をおこなっている。	かかりつけ医は、個々に継続し、受診は家族が対応している。その際、本人の状況や情報を提供している。個々のかかりつけ医の中には、往診可能な医師もある。急変時は、家族が指定する病院を選択している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問受診、定期受診の際は主治医に状況報告を行っている。職員は利用者の日々の様子を常に注意をして観察し、少しの変化も職員で共有するよう記録を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連携室と連絡を取りながら入院中の様子を把握。退院時の受け入れの準備や職員が困難になった場合の対応をスムーズに行えるような関係が出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のお便りに同封する近況報告で利用者様の状態を報告しご家族にお知らせをしている。入居時にも状態に変化が生じた時の対応を説明し理解をして頂いている。	重度化についての対応は、ホームでの生活が可能なまでとしている。終末期は、一定の条件の下で支援は可能であるが、事例はない。状態の変化に応じて、家族と関係者で話し合い、安心して移転ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度は救命救急講習を職員全員が受けAEDは直ぐに使える。また、緊急時のマニュアルがあり事故発生時には適切に対応できる用意がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。災害時には3日間過ごせるだけの備蓄と飲料水が保管している。地域の自治会や企業との連携もとれている。	災害訓練は、法人合同で実施している。地震や水害、夜間を想定し、マニュアルも整えている。自治会と周辺企業との協力関係を築き、備蓄品も確保している。地域の防災訓練への参加を検討している。	検討中の「地域の防災訓練への参加」が実現し、地域住民と事業所との協力関係が、より深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導には特に注意を払い、ほかの利用者にわからないよう声掛けをしている。職員間の会話からも個人に関する内容が漏れない様利用者の前での連絡事項を行わない様配慮をしている。	トイレ誘導の際は、さりげなく声をかけ、利用者の誇りを損ねないように心がけている。利用者同士のトラブルがあった場合には、自然体で介入している。法人には、個人情報保護規定があり、内部研修で周知をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての場面で自己決定を促すよう職員全員が心がけている。選べない場合は二つを提示しどちらかを選んでもらうなど出来る限り自己決定ができる様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中では自然に行うことが決まって来るが季節や時々に応じて多様に過ごしている。天気が良い場合は出掛けたり、柿を頂いたら干し柿を作ったりとその都度柔軟に過ごすよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	風呂上りの化粧水や起床時に髪をとかすなどが出来るよう環境を整えている。一緒に買いに出掛けたり家族が用意をしてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りが必要なため主に昼食時に活動をしている。おはぎ、稲荷寿司、フライ物の衣付けなど一緒に行っている。また、配膳や盛り付け、野菜切り、もやしの根っこ取りなど出来る範囲で行ってもらう。	利用者は、食材の買い出し、食事の準備、片づけなど出来る事で関わっている。栄養士による献立で、家庭的な味付けをし、食べ残しが無いよう工夫している。職員の一人が検食を担い、利用者と一緒に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重表を見ながら増減には注意をしている。残食物を確認し摂取可能な量を把握している。栄養士の立てた献立で栄養管理ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一日3回毎食後に実施している。自歯が残っている利用者に歯科医の口腔ケアを紹介し実施している。		

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツや尿取りパットを使用しながら排泄の状態を観察しトイレ誘導や促しを行い出来る限りトイレでの排泄ができる様努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけと誘導を行っている。個々の状態に合わせて、紙パンツや布パンツにパッドを併用し、トイレでの排泄を支援している。夜間も、安眠に配慮しながら、声かけと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食物を用いたり運動をこころがけているが薬に頼る場合は主治医と相談をし、出来る限り苦痛の無いスムーズな排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は特に訴えや希望がないためホーム側に合わせた時間に入浴をして頂いているが夜間の希望があれば希望に沿うようにしていく用意がある。また菖蒲湯やゆず湯など季節を感じて頂けるよう努めている	入浴は、利用者の体調に配慮し、希望の時間帯にも合わせて支援している。また、個々の身体能力に応じて、介助と見守りを行い、入浴習慣やこだわりも受け止めながら、安楽な入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後の明るさは各々たずね好みの明るさに調節をし、巡視の際に発汗の様子に注意をし必要に応じて更衣を促している。寒がりや暑がりの利用者様が見えその都度居室内の快適な温度を提供するよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わった場合はその効果の状態を主治医に伝えるべく様子の観察を行い、出来る限り薬の服用は控える様主治医とも相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し趣味が生かせるよう支援をしている。様子を見ながら好んでいるかを判断しより楽しめる様心掛けている。買い物や喫茶、散歩など外に出掛ける機会も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日の日課として出掛けており季節の外出や毎月の外食、個別の買い物、喫茶でモーニングなど出来る限希望に沿うようつとめている。墓参りなど家族とも連絡をしながら出掛けられるよう支援をしている。	周辺の散歩や、庭の一角にある観音様参りを日課にしている。買い物や喫茶店に出かけたり、月に1回、外食の日も設けている。年間行事として、花見や紅葉狩り、初詣に行ったり、家族の協力を得て、墓参りにも出かけている。	

岐阜県 さわやかグループホームみのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金の管理を行っていないが家族の了解を得、小遣い程度の少額を持つことを支援し、管理が出来な利用者は預かり、買い物や喫茶店に出掛ける時に遣っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族の了解のもといつでも電話をかけて頂いている。手紙が来た際は返事を出すよう促したり、頂き物のお礼の電話をするよう声掛けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作る季節の飾り物を適度に飾っている。床に落ちているごみを拾おうとして転倒する事もあるのでゴミの無いよう注意をしている。トイレの便器も汚れている際に手を入れてあらおうとされることもあるので常に見回りをしている。	共用の間は明るい陽光が注ぎ、開放感があり、壁面には、季節感のある作品や七福神の大作が飾られている。転倒予防の為、整理整頓に努めながら、利用者が過ごしやすいよう、空調管理も適切に行っている。好きな場所で、ゆったりと寛げるようソファや椅子を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で本や新聞を読んだりする時間を大切にしている。居間で過ごす場所もなんとなく決まっているが気の合った利用者同士が無理なく座れるようそれとなく声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に説明をし馴染みのある家具や使用していた寝具などを用意して頂いている。居室にベッドが備えられているが好みや希望により畳への変更にも対応をしている。	居室には、洗面台とクローゼットが設置されている。使い慣れた整理タンスや椅子、ハンガーラック等を持ち込み、表彰状や家族の写真など、思い出のものを飾り、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の準備、洗濯物の片付けなどは行っていただき、不都合があれば後で直している。洗濯物を干す際には干ししやすいよう低めの竿や安全のため座ってできる様椅子を用意している。		